

第292号

令和3年4月発行

発行人 福本陽平
霜仁会事務局 TEL:0836-22-2029
FAX:0836-31-7586
E-mail:jimu@soujinkai.jp
HP:http://soujinkai.jp/
印刷所 瞬報社オフリン印刷(株)

山口大学医学部

霜仁会会報

医学部附属病院長

再任のご挨拶

山口大学医学部附属病院長

杉野法広



平素は、霜仁会の先生方には、ご指導やご支援を賜り、心よりお礼を申し上げます。

この度、山口大学医学部



果をあげてきました。しかし、昨年2月からの新型コロナウイルス感染症によって状況は一変しました。入院・外来患者数や手術数は激減し病院の経営は大きい打撃を受けました。私は、病院経営・運営の経験および行政との間に築いた信頼関係を生かし、この難局を乗り越えるために、これまで全力を尽くしてまいりましたが、今後も一層心血を注ぐ覚悟です。患者さんが安心して治療を受けられるように、また、医療従事者が安全に働けるように環境を整え、これまで通り、県内唯一の特定機能病院として、高度医療を提供し、「最後の砦」としての役割を果たすべく、病院の経営や運営に尽力します。教職員や学生が自分の仕事にやり甲斐を感じ、本院で学び働く事を誇りに思えるような、活気あふれる魅力的な大学病院を目指します。
コロナウイルス共存下における病院の経営は、どのような状況か、いまだ見通せない状況です。現在は、コロナ禍においても、高度医療を提供することによって経営基盤の安定化を図ることを目標にしています。
そのために、引き続き、コロナ感染症への対応が必要です。昨年4月に立ち上げましたコロナ感染対策チームであるYUIMECOを中心に、水際対策の強化、院内PCR検査体制の整備等を行い、患者さんが安心して受診できるように、また、医療従事者が安全に働けるように、院内感染の防止と患者さん及び医療従事者の安全確保に取り組んでいます。ワクチン接種の効果が出て一刻も早く元の日常に戻ることを願うばかりです。
新病棟は、無事に令和元年の6月24日に開院し、現在、順調に稼働しています。新病棟の建設後も、引き続き2025年までB棟(第1病棟)やC棟(外来棟)の改修など病院再開発整備事業を実施し病院機能の強化を図ります。既存建物が老朽化・狭窮化しているなかでの対応には限界があります。再開発整備事業によりこれまで以上に診療の高度化、専門化および患者からのニーズへの対応が可能になります。
今回のコロナ感染症により、感染対策や公衆衛生に関する専門家が不足していることが明らかになりました。医療従事者への専門的な教育研修や学生への早期教育だけでなく、介護施設等の職員への基本的な教育研修や県民への教育・啓蒙も行っていく必要があると思います。また、日本における多くの分野でのデジタル化の遅れも浮き彫りになりました。医療分野においては、医療者間の日常的なコミュニケーション・情報共有の推進(地域医療連携ネットワーク機能の改善・強化)、テレビ会議システム・ビデオオンデマンドシステムの導入、患者診療記録の共有・相互利用の促進、オンライン診療システム等による遠隔診療支援など、地域医療連携におけるデジタルトランスフォーメーションの基盤整備が必要であり、行政との緊密な連携が不可欠と考えています。
今日の我が国におけるアカデミアには、技術等の進展がもたらす社会・Societyを念頭に置いた研究の改革が望まれています。私は、平成30年に設置したAIシステム医学・医療研究教育センター(AISMEC)を中心に、AIを用いた医療データ解析とソフトウェア等の開発を進めると同時に、未来の情報医学を担う人材の育成を推進します。さらに、医師不足や高齢化・過疎化が進む山口県において、地域のシンクタンクとして、AIを用いた医療データ解析によって早期発見、正確な診断を可能にする先進的医療サービス(臨床意思決定支援システム)の提供を目指します(地域密着型AIホスピタル構想)。

山口県に残る医師の確保に努めます。本院の医療人や多職種から構成される育成センターの研修医・専門医支援部門と山口県行政、医師会や関連病院との連携を積極的に進めます。関係者の皆様のご協力により、山口大学専門研修プログラム登録者(入局者)は、昨年度が54名、今年度(令和2年12月時点)は55名です。さらなる入局者数の増加に努めます。

理事 会 報 告

第6回理事会

令和2年12月18日(金) 19時より霜仁会医学交流会館3階において24名の出席のもと開催された。

【報告事項】

1. 11月20日(金) 霜仁会賞運営委員会 (山本(健))
2. 12月18日(金) 白衣着衣式 (福本)

【審議事項】

1. 監事1名及び支部代議員1名選挙の今後の日程について審議し、原案通り日程が承認された。(白澤)
2. 国際留学生奨学金の貸与について審議し、神経

第7回理事会

令和3年1月15日(金) 19時より霜仁会医学交流会館3階において25名の出席のもと開催された。

【報告事項】

1. 1月6日(水) 第1回霜仁会学術振興賞選考委員会 (山本(健))
2. その他

- ・前回承認された国際奨学生2名のうちCHANG YAOWEI(中国)1名から奨学金の辞退があった。
- ・杉野附属病院院長が再選された。(3期目)

【審議事項】

1. 霜仁会選挙管理委員会委員として、若松隆史先生(昭56年卒)と松山豪泰先生(昭56年卒)が承認された。(藤岡)
2. 検査センターパート職員として、藤野緑さんを1月から採用することが承認された。(河野)
3. 令和4年度霜仁会総会は、5月15日(日)に開催することが承認された。(白澤)
4. 社会活動部門賞選考委員会、学術振興賞最終選考委員会の出席予定者を確認した。

退任挨拶

退任のご挨拶

山口大学大学院医学系研究科 消化器内科学講座



坂井田 功

ものでした。多層性社会における多層性の重要性と、あらゆる意味で結果を出す必要があること、また何より生き抜く力を学んだと思います。

平成17年8月に5代目の消化器内科学講座(第一内科)教授を拝命し、本年3月末日をもって定年退職致しました。この間、山口大学大学院医学系研究科長・医学部長、山口大学難治性疾患トランスレーショナル研究拠点長、先進科学・イノベーション研究センター再生・細胞治療研究センター長等を経験させていただきました。昭和59年に山口大学医学部を卒業後、第一内科講座に入局しました。大学院にすぐに進学し、お昼は研修医で夜は大学院生(研究)と二足のわらじの大変で充実した生活を送ることができました。卒後4年目の独身でのアメリカ留学は大きなインパクトを与える

この過程で科学だけでなく、再生医療に使用する細胞培養のロボット技術の開発や細胞品質を管理する細胞培養師の育成にも携われる経験ができました。2019年に「Nature」誌に紹介されたのは光栄の極みです。

また、アメリカ留学時代から行ってきた肝細胞内鉄代謝を臨床治療に応用した鉄キレート剤による肝細胞癌治療成績が、New Eng-

land Journal of Medicineに掲載されたことも人生において特筆すべき出来事でした。2つともまだまだ改良・発展させる必要がありますが、何か1つの区切りまでは進めることができたのではないかと思います。

何より患者さんの協力を得ながら、新規治療法の開発に邁進できたことは、何物にも代えがたい喜びであり、これも熱意溢れる教室員や同門や霜仁会の先生方のご協力の賜物と感謝しています。不可能と思われたことも、高い志と日々の努力を積み重ねることで可能になることを、草莽崛起した教室員が示してくれました。

このように研究を通して、最新教育と先端医療の実践を行うことで、時代や環境が変わっても生き抜く知恵と決断力のある人材育成に取り組んで参りました。その成果は、時が判断してくれるものと楽しみにしています。

最後になりますが、今後の山口大学医学部、霜仁会の益々のご発展を祈念して、私の感謝の言葉とさせていただきます。

学内報告

白衣着衣式謝辞・宣誓

医学科 四年総代 飯田 美里

本日は、御多忙の中、私たち医学科四年生のために多くの先生方、また職員の皆さまにお集まりいただき、誠にありがとうございます。白衣に袖を通すことで、医療人となることを志す者としての自覚を高めると共に、その責任と使命の重さを実感しています。医療人としての新たな一歩を踏み出す私たちの決意として、誓いを述べさせていただきます。

一つ、患者さんの意志を組み取り、尊重し、自らの生涯を人道のために捧げることを誓います。
一つ、これまで学習してきた医学的知識が実臨床の場でどう反映しているのか自分の目で見て学ぶと共に、謙虚な姿勢で向上心を以て学び続けることを誓います。
一つ、これからお世話になる先生や医療スタッフの方々が患者さんに向き合う姿に着目し、自分の理想とする医師像を描くこと、そして指導して下さる全ての方へ感謝し続けることを誓います。



一つ、本日この白衣着衣式で実感した医療人となることの責任と使命の重さを忘れることなく日々の実習を真摯に取り組むことを誓います。

以上頂いた白衣の責任と使命を胸に、日々精進して参ります。

(集合写真はP14に掲載)

論文掲載報告

—胎便関連性腸閉塞における腸蠕動不穏—

山口大学医学部附属病院
総合周産期母子医療センター(小児科)

助教 岡田清吾 (平20年卒)



原著ではありませんが、このたび拙稿がトップジャーナルであるThe New England Journal of Medicine (NEJM) に受理されました。本論文は「Visible Intestinal Peristalsis in a Neonate」というタイトルで、IMAGES IN CLINICAL MEDICINE部門に掲載されました (Okada S, Hasegawa S, N Engl J Med 2021;384e1)。NEJM (IMAGES IN CLINICAL MEDICINE) は、日常臨床で経験する典型的な所見のほか、思いがけず遭遇したはっと目を引く画像(事象)について概説した教育コンテンツです。

さて、本報告症例は在胎28週・体重1,024gで

りありと思いだされま

臨床写真 (clinical picture)

は臨床推論の dual process theory における直感的アプローチに非常に有用なツールであり、NEJM、Lancet、BMJ など多くのトップジャーナルが投稿を受けつけています。本校卒業生の忽那賢志先生 (国立国際医療研究センター) も clinical picture の重要性を唱えられており、2018年に日本臨床写真学会が設立されました。学術誌の Image 部門は初期研修医や専攻医の先生方でも取り組みやすいと思いますので、若手の先生方は経験症例をどんどん投稿してみたいかがでしょうか。

最後に、このたび寄稿の機会を与えてくださいました霜仁会会報編集委員の先生方に心より御礼申し上げます。より一層臨床および研究に尽力し、霜仁会の先生方のご期待にお応えできるよう努力してまいりますので、今後とも御指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



総合周産期母子医療センター (小児科) スタッフ一同 (後列左端が著者)

令和元年度

山口大学医学会 小西賞

「Rapid and sensitive detection of UGT1A1 polymorphisms associated with irinotecan toxicity by a novel DNA microarray.」

山口大学医学部附属病院 消化器・腫瘍外科学

恒 富 亮 一

(山口大学農学部 平11年卒)



この度は、名誉ある山口大学医学会小西賞を賜り、大変光栄に存じます。選考いただきました先生方、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

今回、受賞対象となりました研究は、UDPグルクロン酸転移酵素遺伝子多型を判定する新規の方法について発表した論文であります。抗がん剤イリノテカンの投与対象となる患者に対して、右記遺伝子多型を事前に測定することで、投与後の副作用発現リスクを予測し、患者に合わせた副作用を回避するための投与量を決定する、いわゆる個別化医療

結果、現行のUGT1A1遺伝子多型体外診断に用いられているインベーター法と比べ、1/140~1/40倍の微量なDNA量で遺伝子多型を測定できました。また、所要時間も従来法と比較して1.5倍短縮されました。

最後に、長年にわたり、ご指導・ご鞭撻をいただいた岡正朗先生(山口大学学長)、多大なるご協力をいただきました永野浩昭先生(山口大学大学院医学系研究科消化器・腫瘍外科学教授)、裕彰一先生(山口大学医学部先端がん治療開発学教授)、岡山直子先生(山口大学医学部附属病院検査部)に深謝いたします。また、東洋鋼鈹株式会社及び山口県のご支援により、本技術が体外診断用医薬品として上市されましたこと感謝申し上げます。

遺伝子多型を測定するために本研究では、目的塩基配列のPCR法による増幅・蛍光標識とDNAチップ上に固定化されたDNAプローブとの特異的ハイブリダイゼーション反応とを組み合わせた方法を用いています。また、チップ表面をダイアモンド様炭素層にて処理することでシグナル/ノイズ比を向上させました。その

令和元年度

山口大学医学会 中村賞

「Inflammation and NLRP3 inflammasome activation initiated in response to pressure overload by CaMKII δ signaling in cardiomyocytes are essential for adverse cardiac remodeling.」

山口大学大学院医学系研究科 器官病態内科学

末 富 建

(平16年卒)



この度は伝統ある山口大学医学会中村賞を賜り、大変光栄に存じます。山口大学医学部会長の篠田晃先生、選考委員の先生方をはじめ関係者の皆様に御礼申し上げます。

心不全の治療は日進月歩ですが、その病態は複雑であり、心負荷に伴って心筋リモデリングがどのようなプロセスを経るのかなど、明らかにすべき基礎的課題が多く残されています。その中で、最近の大規模臨床試験の結果などから、心機能低下における自然炎症の

マソームを活性化させ、その後のマクロファージ等の炎症性細胞の心筋組織内集積や心筋線維化、慢性期の心機能低下につながることを示しました。これらの知見を積み重ねることで、過去に多くの臨床試験で行われた一律な免疫抑制の方法論から一歩踏み込んだ、より選択的な炎症制御による心不全の分子標的治療の開発に多少なりとも貢献できればと存じます。

最後にになりましたが、日頃よりご指導いただいております器官病態内科学講座の矢野雅文先生、University of California San DiegoのJoan Heller Brown先生をはじめ、ご協力いただきました先生方に心より感謝申し上げます。霜仁会の先生方には今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

教室紹介

ゲノム・機能分子解析学講座 (微生物学)

当講座は昭和20年春に山田弘教授により開設され、それ以前は微生物学の講義は小沢政次先生(後の本学内科教授)がされてきました。当医学部の創設に尽力した義祖父でもある宇部興産創業者の渡邊剛二氏も京都帝国大学医学部では細菌学専攻でしたが、昭和25年4月には二代目教授として、林良二先生が京大から着任され、30年近い在任中に多くの業績を残されました。昭和53年より、吉井善作教授が第三代目の教授となられスピロヘータ研究を展開されました。

伝子群の転写制御メカニズムの解明は高く評価されており、着任したばかりの私が同研究に寄与できたことは幸運でした。中澤先生は、私も参加した日本学術振興会事業「病原性微生物のゲノム解析」のリーダーとなられ、我が国の微生物ゲノム研究は本学から始まりました。ワシントン大学との共同研究での欧米・日本のピロリ株病原性とゲノム解析やβガラクターム系抗菌薬耐性ピロリ株の世界初の分離、解析も当講座の成果です。

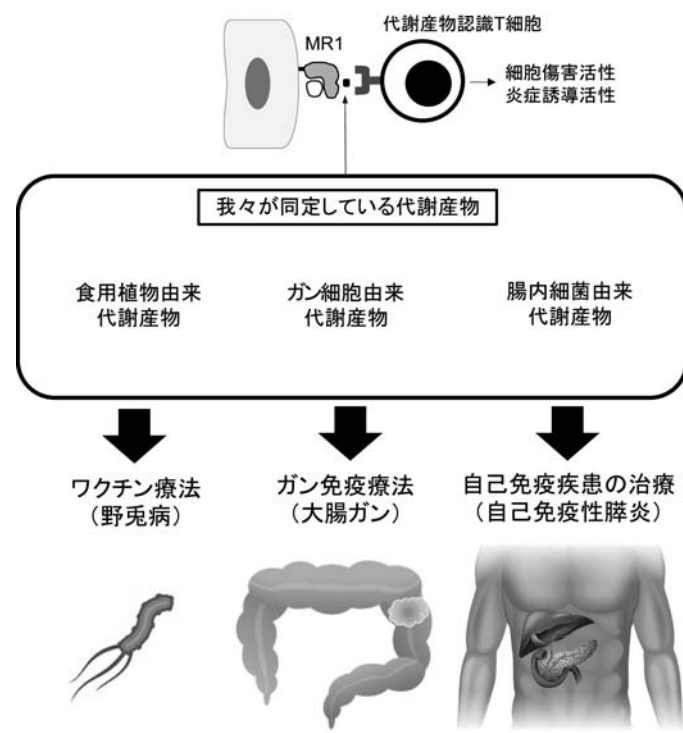
最近の当講座の柴田講師の研究では、病原微生物、腸内細菌、がん組織、自己免疫疾患での慢性炎症組織等から産生された様々な代謝産物が、その病態を制御していることが報告されていますが、その分子メカニズムの多くは不明です。私どもはこれまでに、独自に樹立したスクリーニング系と動物モデルを用いて、自己免疫疾患、がん、創傷治癒、感染症の病態を直接制御する代謝産物を相次いで

昭和62年から、第四代の教授に中澤晶子先生(その後本学監事)が就任されました。中澤先生は文化勲章受章者早石修京大教授の薫陶を受け、緑膿菌研究で世界的に知られており、当教室着任後はヘリコバクター・ピロリの研究をいち早く開始され、特に同菌が強酸性の胃の環境で生存する上で最重要のウレアーゼ酵素遺

米国立留学中は文部省在外研究員助成を受け国立衛生研究所(NIH/NCI)米国家公務員として、ワクチン免疫の世界的権威ベルゴフスキー博士(NIH部門長)の指導で、エイズウイルス、C型肝炎ウイルス(A型肝炎ウイルスの発見者、WHOダイレクターフェイエンストン博士とのNS5B領域の「解明」の抗原ドメイン構造と抗原性を世界に先駆けて解明でき、これらの成果は多くの欧米の特許取得に繋がりが診断や治療に利用され、現在でも毎年多額の特許料を米政府より拝領しております。また私に引き継がれた前述の「病原性微生物のゲノム解析」(JST)事業では、肺炎クラミジア全ゲノム(我が国の病原菌全ゲノム解読第一号)や日本紅斑熱リケッチア全ゲノムなど多くの病原菌ゲノムが解明できました。(JST文部科学省タンパク3000事業、国立感染研共同研究事業)他にも世界でお酢造りに利用されている多種の酢酸菌(経産省「E」ゲノム解析事業、ミツカン創業百周年事業、農林水産省 生研機構 新技術・新分野創出推進事業)など多くの菌種の細菌ゲノムの解読ができた

また、コロナ禍となり過去に取り組んだ近紫外波長LED光殺菌装置(文部科学省 知的クラスター創成事業)やカセット式迅速肺炎診断機器(MEDO大学発事業創出研究開発事業)(欧米亜で多数の特許)を新型コロナウイルス殺菌や検出に応用できないか模索しております。

代謝産物による免疫制御の分子基盤の解明と治療応用



私自身が教室を引き継いで22年となり、その間、在京国立機関から招聘をいただいたこともありましたが、本

霜仁会の皆様には日頃のご支援に感謝致しますとともに、今後なお一層のご厚情を賜りますようお願い申し上げます。(同講座教授 白井睦訓)

病院紹介

下関市立豊田中央病院



病院長
吉富崇浩先生



この度は霜仁会会報に病院紹介させて頂く機会を頂き誠にありがとうございます。

当院は、北は長門市、東は美祢市に接する下関市北部の中山間地域に位置する病院です。昭和27年旧殿居村、豊田中村、西市町、豊田下村、及び豊田前村の5カ町村を以って「国民健康保険豊田5カ町村組合」を組織し、豊浦中央病院として発足しました。昭和27年町村合併により豊田町となり、「豊田町国民健康保険豊田中央病院」と改称。さらに平成の大合併で下関市

と豊浦郡4町が合併し、平成17年「下関市立豊田中央病院」と改称し現在に至ります。現在の病舎は平成7年に全面改築し、平成16年に眼科診療棟と眼科病棟を増築しています。病床数は71床ですが、平成30年4月に病棟再編を行い、療養病棟11床を休棟とし、以後一般病棟60床（地域包括ケア病床15床を含む）で運営しています。また、下関市立豊田中央病院殿居診療所と

下関市立角島診療所を管轄しており、殿居診療所では週3日（午後のみ）、角島診療所では週4日診療を行なっています。介護保険事業として訪問看護、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーションを提供しています。

標榜科目は内科・外科・泌尿器科・整形外科・脳神経外科・小児科・眼科・リハビリテーション科・皮膚科で平成31年2月より総合診療科を院内標榜しました。

令和3年1月現在、当院の常勤医師は内科・総合診療科5名（内1名は主に角島診療所診療に従事）、眼科診療所診療に従事）、眼科1名です。山口大学医学部の各講座を中心に多くの先生方にご協力いただき、病

院理念である「地域住民のニーズに対応した適正な医療の提供」「高齢化社会における保健・医療・福祉の連携、統合を図る地域包括ケアシステムの拠点としての役割機能」に努めております。

対象地域では人口減少が進んでおり、高齢化率は約50%にのぼります。75歳以上の後期高齢者人口は2030年まで微増しますが、以後減少に転じると推測されています。人口減少、高齢化が進む地域において当院のような地域密着型の病院が担うべき役割として、高齢者を中心に肺炎や心不全、感染症、骨折などの一般急性期患者の入院を受け入れる「Sub acute機能」、高度急性期・急性期病院での治療を終え、在宅復帰に向けて療養が必要な患者の入院を受け入れる「Post acute機能」、介護予防および要介護となっても在宅での生活を継続できるように適切なリハビリテーションを提供する「リハビリテーション機能」、住み慣れた地域で暮らしていくため退院支援、日常の療養支援、急変時の対応、看取り対応など各段階において必要な医療を提供する「在宅療養

支援機能」、介護保険サービスや行政、福祉、地域住民と連携、協働する「医療介護連携機能」があげられます。

平成30年4月から始まった新専門医制度の19番目の基本領域である総合診療専門医の研修プログラムにおいて、山口大学、山口県立総合医療センター、下関医療センターさらに飯塚・穎田病院と4つのプログラムを受け入れています。また山口県立総合医療センターへき地医療支援部に支援を委託し、「豊田発シモノセキキラキラプロジェクト」として医師だけでなく看護師その他多職種を含めた地域包括ケアシステムの視点を取り入れた人材養成プログラムの作成に取り組んでいます。令和2年10月より飯塚・穎田病院のプログラムから1名の専攻医を受け入れ、常勤医が1名増え、教育を「Lead word」として医師確保につながっています。

また令和2年度はコロナ禍のため開催に至っていませんが、「豊田中央病院と語ろう会」と題して、概ね公民館単位で地域住民の方と病院スタッフが直接対話をさせて頂く機会を設け、

地域の皆様には信頼され、より身近に感じてもらえる病院を目指しています。

新型コロナウイルス感染症が猛威をふるいまだまだ終息がみえない状況ではありますが、withコロナ、postコロナを見据えて、必要とされる病院機能に臨機応変に対応していく所存です。

今後とも皆様からのご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

地域の皆様には信頼され、より身近に感じてもらえる病院を目指しています。

新型コロナウイルス感染症が猛威をふるいまだまだ終息がみえない状況ではありますが、withコロナ、postコロナを見据えて、必要とされる病院機能に臨機応変に対応していく所存です。

今後とも皆様からのご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

地域の皆様には信頼され、より身近に感じてもらえる病院を目指しています。

新型コロナウイルス感染症が猛威をふるいまだまだ終息がみえない状況ではありますが、withコロナ、postコロナを見据えて、必要とされる病院機能に臨機応変に対応していく所存です。

今後とも皆様からのご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



**ANA
CROWNE PLAZA®**
AN IHG® HOTEL
UBE

ANAクラウンプラザホテル宇部
〒755-8588 山口県宇部市相生町 8-1 Tel:0836-32-1112(代)

医療関連事業
疾病の診断から治療までを担う

ニュートラシューティカルズ関連事業
日々の健康維持・増進をサポートする

両輪で身体全体を考える

世界の人々の健康に貢献する
トータルヘルスケアカンパニーを目指します。

Otsuka-people creating new products
for better health worldwide

 Otsuka 大塚製薬

<https://www.otsuka.co.jp/>

医書のことなら全てお任せ下さい。

- 常時 10,000点の在庫。
- 便利な試覧制度と即日納品も可能なスピーディー宅配便。
- インターネットによる医学書の最新情報の提供と注文が可能。

《 日本医書出版協会認定
医学・看護学専門書店 》

井上書店

宇部店 〒755-8566 宇部市南小串2丁目3番1号
TEL (0836) 34-3424 FAX 34-3090
e-mail : ube @ mm-inoue.co.jp

小倉店 〒802-0077 北九州市小倉北区馬借2丁目1-20
TEL (093) 533-5005 FAX 533-9789
e-mail : kokura @ mm-inoue.co.jp

[ホームページアドレス]
<http://www.mm-inoue.co.jp>



**Better Health,
Brighter Future**

タケダから、世界中の人々へ。
より健やかで輝かしい明日を。

武田薬品工業株式会社
www.takeda.com/jp



ご結婚・ご宿泊・会議・会食に

国際ホテル宇部

☎ **0120-375931**
山口県宇部市島1丁目7-1
<http://www.kokusaihotel-ube.co.jp>

まだないくすりを
創るしごと。

明日は変えられる。



astellas
アステラス製薬株式会社
www.astellas.com/jp/

山口大学医学部霜仁会の

会員総合補償制度

中途加入受付中!

中途加入の場合、毎月20日までにお申込みいただくと翌月の1日が補償の開始日となります。

団体割引が適用されるため、**保険料が割安**です!!



産業医等活動保険にもご加入できます!
(勤務医師賠償責任保険任意オプション)

会員総合補償制度のおかげで安心して医療に従事できます

万一の医療事故を補償

医師賠償責任保険
(勤務医向け)

団体割引 20%

地震や日常生活によるケガ 携行品 賠償責任を補償 団体割引 5%

傷害補償

- ◆国内外、24時間、事故によるケガを補償します。(地震・噴火・これらによる津波によるケガも補償します。)
- ◆ケガ以外にも携行品の損壊など、様々なリスクを補償します。
- ◆年齢にかかわらず保険料は一律です。

働けなくなった時の収入を補償 団体割引 10%

所得補償

- ◆病気やケガで就業不能となった場合に、先生方の所得を補償します。
- ◆入院はもちろん、自宅療養もカバーできます。
- ◆ご加入の際、医師の診査はありません。(健康状態告知のみ)。

万一のがん・病気・ケガを補償

がん補償 団体割引 10%

- ◆がんと診断確定されたとき、診断保険金が支払われます。
- ◆入院保険金は1日目から何日も補償されます。
- ◆手術保険金は何回でも補償されます。(手術の内容・種類によっては回数の制限があったり、お支払の対象とならない場合があります。)
- ◆ご加入の際、医師の診査はありません。(健康状態告知のみ)。

医療補償

- ◆病気だけでなくケガによる入院も補償されます。
- ◆入院保険金は入院1日目から補償されます。(限度日数あり)。
- ◆ご加入の際、医師の診査はありません。(健康状態告知のみ)。

突然介護が必要になった時に保険金をお支払 団体割引 10%

介護補償

- ◆公的介護保険制度に基づく要介護2以上の認定を受けた場合
- ◆東京海上日動所定の要介護状態(要介護2用)と診断されその状態が90日を超えて継続した場合いずれかの場合、保険金(一時金)をお支払いします。

長期間働けなくなった時の収入を補償 団体割引 10%

団体長期障害所得補償

- ◆病気やケガで就業障害となった場合に、先生方の所得を補償します。
- ◆長期にわたり(最長5年)生活費をお届けします。
- ◆ご加入の際、医師の診査はありません。(健康状態告知のみ)。

詳細はパンフレットをご覧ください。この広告は医師賠償責任保険、産業医等活動保険、団体生活総合保険の概要についてご紹介したものです。詳細は契約者である団体の代表者の方にお渡しする保険約款および協定書によります。ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。尚、ご不明な点等がある場合には、取扱代理店までお問い合わせください。

申込書類・資料のご請求やお問い合わせはお電話もしくはメールで下記取扱代理店までお願い致します。

<p>お問合せ先・取扱代理店</p> <p>株式会社パイオニア (平日)午前9時~午後5時</p> <p>〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町4-4-16 小泉第2ビル3階</p> <p>TEL : 0120-010-938 FAX : 0120-921-051</p> <p>http://www.pioneerltd.com yamadai@pioneerltd.com</p>	<p>引受保険会社</p> <p>東京海上日動火災保険株式会社</p> <p>(担当課) 医療・福祉法人部 TEL : 03-3515-4143</p> <p style="text-align: right; font-size: small;"><募集番号>:20-TC08805 2021年2月作成</p>
---	--

マングローブの森づくり。それは、豊かな地球を未来に届けること。

マングローブ植林は「地球の未来にける保険」です。これからも、ともに未来へ。

マングローブ価値共創100年宣言

東京海上日動

医療・福祉法人部
東京都千代田区三番町6-4 〒102-8014
お問い合わせ先(TEL):03-3515-4143 www.tokiomarine-nichido.co.jp

To Be a Good Company



イノベーションに情熱を。
ひとに思いやりを。



Daiichi-Sankyo



TERUMO

約 W78 × D40 × H19 mm

えっ！これがポンプ？

日本初。チューブフリーのパッチ式インスリンポンプ。

MEDISAFE WITH

一般的名称：ボータブインスリン用輸液ポンプ 販売名：メディセーフウィズ 医療機器承認番号 2290082X00374

テルモ株式会社 〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷2-4-1 www.terumo.co.jp

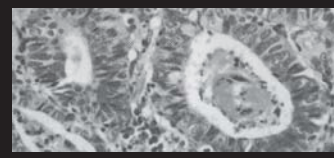
登録されている社名、各種名称は、テルモ株式会社および各社の商標または登録商標です。
©テルモ株式会社 2020年7月

印刷を企画から
在庫管理・発送まで **一括サポート!**
まずはお気軽にご相談ください。

瞬報社オフリン印刷株式会社

[本 社] 〒754-0002 山口県山口市小郡下郷2410番地
TEL 083-972-5678 FAX 083-973-1912
[営業所] 広島・下関物流センター

**病理組織・細胞診検査
動物実験研究用病理標本作製**



地域医療に貢献し、共に発展する検査センター

登録No.100号の登録衛生検査所として病理検査部門の検査を行っています。各種臓器の生検、手術標本はもちろんのこと、研究用試料も扱っています。また、細胞診検査においても各種検体を扱っています。

すばやい対応・迅速・正確

持ちこまれた検査物は大事なお客様です。検査別、材料別に適した処理を迅速に行います。受付から結果報告まで一貫したシステムで対応しております。

責任が持てる標本作り

最新の設備を導入し、それらの機器は常に管理され、運用されています。ステップ毎に管理された行程は、日々の仕事を円滑にし、精度の高い検査情報として提供致しております。

標本が教科書

細胞診では毎日の業務の積み重ねがよりよい結果をもたらします。より豊富なコメントと診断精度の向上に日夜努力しております。

検査項目

- 細胞診：婦人科
- 細胞診：一 般 (呼吸器・泌尿器・体腔液・その他)
- 病理組織診断：各種臓器の病理組織検査
特殊染色 (免疫染色法を含む)
ER、PgR、HER2染色法
- 研究用病理組織標本作製
※詳細は検査案内書参照

結果報告

- 受け取りから結果報告まで
細胞診：2～3日
病理組織診断：3～4日
(脱灰脱脂や特殊染色が必要な場合は多少時間がかかります)
※お急ぎの場合はその都度対応いたします

組織、細胞診検査の集配業務行っております。 各種依頼用紙、試料瓶などはご一報頂ければお届けします。新規の医療機関でもお電話頂ければすぐに伺います。

※詳細は検査案内書を参照してください。検査料金は当センターの検査料金規定によります。

(社)霜仁会検査センター 〒755-0046 宇部市南小串1丁目2-11 霜仁会医学交流会館2F
TEL 0836-31-7510 FAX 0836-31-7590

ジエネシス

自己開発コースを終えて

国内プログラムコース

医学科 四年 阿賀康平



今回の自己開発コースでは、私は本学高次脳機能病態学講座にて半年間の研究活動を行いました。

自己開発コースは自分で一連の研究を考え行う初めての機会でした。初めて本格的な研究に携わって、実験設定を緻密に考えたり、研究内容をどのようにまとめるか悩んだり、難しい課題に何度も直面しました。そのたびに指導教員の方にご指導を受け、研究方法の基礎を学ばせていただきました。研究を進めていくうえで特に私に備わっていない能力だと感じたのは、論理的に物事を考えることです。例えば今回の研究結果をまとめる際に、根拠のないことを感覚的に述べてし

もちろんのこと、先輩や先生などで論理的に物事を考えることが得意な方々を参考にするなどして自分を高めていきたいと思えます。また、緊張してしまいやすく発表の苦手な私にとって今回の自己開発コースは苦

手克服の練習としていい機会となりました。発表の場などで感じる緊張を克服するには多くの経験が必要だと聞いたことがあります。普段の学生生活では記述の勉強がやはり多く、発表の機会が与えられるのはどう

しても少なくなってしまいました。そういった面では今回の自己開発コースでの発表機会は貴重であり、今回学んだことを大事にして次

自己開発コースを終えて

国内プログラムコース

医学科 四年 小林由衣



私は国内プログラムコースにおいて、神経解剖学講座で半年間研究活動を行って

め方や手技を身に着けるだけでなく、週に1回の研究ミーティングに参加して自身の研究の進捗状況を発表したり先生方の研究内容や発表を聞かせて頂いたりする中で、プレゼンテーション能力の向上も図ることができました。

まず研究を通して感じたことは、1つの発見をして論文を書き上げることの大変さです。これまでは研究によって明らかにされた既知の事実を論文や教科書などを通して学んでいました

が、本コースではその課程に携わらせて頂き、1つの発見のなかにどれだけの失敗とどれだけの苦労があるのかということが身をもって感じられました。実際に免疫染色やウエスタンブロットなどの実験手技を習得し、研究計画を立てて実験を進めてもデータが安定しな

なかつたり、思いもよらない結果が出たりとなかなかうまくは進みませんでした。しかし、このような中でも研究を続けるモチベーションになっていたのは、新しいことを知りたいという気持ちです。実験を重ねて新たな発見をした時の達成感や理解が進んだ時の喜びを感じることで、年

齢を重ねるにつれて薄くなっていった知的な好奇心が刺激されました。最後に、お忙しい中、厚いご指導をしていただきました神経解剖学講座の先生方に感謝申し上げます。この半年間を振り返ると初めての研究活動に戸惑い、前に進まなかった時期もありましたが、普段机について勉強しては気づき得ないことが多々あり、とても実りのある期間になりました。将来、臨床に進む学生が多い中で半年間も研究に携わらせていただいたり、自由な時間の中で自身を成長させたりできるこの自己開発コースが今後も山口大学医学部医学科のカリキュラムとして発展し続けていくことを願っています。また、この自己開発コースで得た学びに対する新たな視点や研究のノウハウをここで終わりにせず、これからの大学生活生活かして

自己開発コースを終えて

国内プログラムコース
医学科 四年 黒田千佳



私は山口大学医学部器官解剖学講座にて研究活動を行わせていただきました。器官解剖学講座では近年医療応用が盛んに研究されている分野である新機能のナノ粒子の創生や、ナノ粒子を用いて細胞や個体レベルでの生理学的意義の解明についての研究を行っています。私はナノ粒子が生体内の回収経路であるリンパ系に与える影響について興味を持ち、サイズの異なるナノ粒子がリンパ節内でのような分布を示すのかを明らかにするため研究を行いました。実験ではナノ粒子をマウスに投与した後、リンパ管からリンパ節に移行した粒子を観察するために、蛍光顕微鏡での組織学的観察や三次元撮影、および分布解析を行いました。自己開発コースの6ヶ月という短い期間では実験がうまく

行かないことや想定外の結果が出ることもあり、研究の難しさを改めて感じました。しかしながらその一方で、自分の手で未知の生命現象を明らかにすることができる可能性や、その面白さを学ぶことができ大変有意義な時間を過ごすことができました。この自己開発コースを通して得ることができた論理的思考力とプレゼンテーション能力は今後の自分にとって大きな財産になると思っています。研究を行うためには、目的を明確にして仮説を立て、それを一つ一つ検証し、その結果からさらなる仮説を立てるという一連の論理的な考え方が必要です。先生方や同級生と実験データや仮説について議論をすることで、そのような思考のトレーニングを行う機会を多く得ることができ、自然と論理的思考を行えるようになったと感じます。また週に一度、自身の研究について進捗をプレゼンテーションする機会を作って頂きました。研究概要から

実験データに関して、研究室の先生方にわかりやすく的確に伝えるためには、発表スライドや喋り方、内容や最も伝えたいことを効果的に説明する能力が必要だと考えます。試行錯誤しながら毎週のプレゼンテーションを行うことで自身のプレゼンテーション能力が向上したと感じています。最後に、ご指導いただいた器官解剖学講座の先生方に感謝申し上げます。今後は自己開発期間で行った研究をまとめて研究成果として発表できるよう研究活動に邁進するとともに、自己開発コースを通して得た経験を活かし、将来医学や医学研究に貢献できる医師になれるよう、より一層努力していきたいです。

クラブ紹介

柔道部
医学科 四年 石井貴大

現在、山口大学医学部柔道部の主将を務めさせていただいております。医学科4年の石井貴大です。クラブ紹介という貴重な機会を頂いたので柔道部を代表して御挨拶させていただきます。

私たちは現在、6年生2人、5年生3人、4年生2人、3年生4人、2年生3人、そして1年生2人の計16人です。1年生2人は昨年12月に入学してくれました。非常に喜ばしいことです。練習は月曜日、木曜日、土曜日の週3回、武道場で行っています。練習内容は、柔道においては怪我予防の観点から最も重要とも言えるストレッチから始まり、寝技、立ち技それぞれの打ち込み、投げ込みといった技の形に重点を置いた練習、そして乱取りという実践形式の練習で締めくくります。体力づくりのために冬にはランニングも行います。他の部活に比べると人数が少なく、どうしても寂しい練習風景となっております。

それでも練習に活気を持たせるために声出しを積極的に行うようにしています。至極当然の事に思われる方もおられるでしょうが、少数部活にとってはこれがとても重要です。また、現在はコロナ禍のため行っていないですが、工学部、本学の柔道部と合同で練習を行う日もあります。練習内容は同じでも練習相手が違えば普段と違った刺激が加わり、お互いの成長にプラスに働きます。この繋がりは大切にしていきたいと思っています。練習だけでなくレクリエーションも充実しています。夏は角島、冬はスキー場、少人数ならではの機動力を生かして部員一同全力で楽しんでいきます。今年度は全て中止になってしまったので今年度の分、来年度に楽しもうと思っています。また、今年度は中止になってしまいましたが、新入生歓迎コンパや追い出しコンパでは例年、顧問である杉野院長を始め、多くのOBの先生方に来ていただいています。いつも私たち現役生を気にかけてくださり御指導、御支援いただき、部員一同深く感謝申し上げます。これからも温か

く見守っていただけますと幸いです。大会成績に関しましては、今年度はコロナ禍の影響により九州山口大会、中国四国大会、西日本医科学生大会といった、例年参加している大会が全て中止になってしまいました。昨年度の勢いのまま試合に臨もうと思っただけに、非常に残念です。来年度はOB・OGの先輩方に昨年度以上の良い報告ができるように今からやる気に満ち溢れています。

末筆ではございますが、コロナ禍の現状にも負けず、部員一同、大会に向けて励んでいく所存ですので、今後とも御指導、御鞭撻のほどよろしく願います。

練習だけでなくレクリエーションも充実しています。夏は角島、冬はスキー場、少人数ならではの機動力を生かして部員一同全力で楽しんでいきます。今年度は全て中止になってしまったので今年度の分、来年度に楽しもうと思っています。また、今年度は中止になってしまいましたが、新入生歓迎コンパや追い出しコンパでは例年、顧問である杉野院長を始め、多くのOBの先生方に来ていただいています。いつも私たち現役生を気にかけてくださり御指導、御支援いただき、部員一同深く感謝申し上げます。これからも温か



ご逝去を悼む

中元 覚先生追悼 転載記事



先日、東邦大学医学部坂井謙教授より、松山豪泰教授（S56年卒）を介して、自分が日本透析医会雑誌Vol.35 No.3に掲載した故中元覚先生の素晴らしい業績を霜仁会の先生方に伝えていただきたいとの申し出をいただき、日本透析医会にも転載する許可をいただきましたので、以下を掲載いたします。

【略歴】

中元 覚 (なかもと さとる)

昭和2年11月1日

山口県玖珂郡北河内村にて出生

昭和26年

山口県立医学専門学校卒業

昭和26年

福岡米国陸軍病院にてインターン

昭和28年

4月に渡米、ホノルルのクアキニ病院、ニューヨーク医科大学附属メトロポリタン市立病院、コロラド州立大学附属コロラド総合病院とクリーブランド・クリニックにて一般内科の研修
昭和34年 コロラド州立大学より修士号授与
昭和34年 クリーブランド・クリニックの人工内臓臓器部長コルフの下で腎臓病、透析と腎移植の研究
昭和36年 クリーブランド・クリニックのスタッフ医師
昭和40年 北米卒業後医学研修委員会から青年医学研究賞を、腎移植の貢献に対して受賞
昭和42年 クリーブランド・クリニックの腎臓内科透析部長
平成2年 クリーブランド・クリニックを定年退職し名誉スタック

フへ。クリーブランド・クリニックに中元奨学金が設立される

昭和62年—令和2年 日本透析医会顧問
去る2020年5月5日に米国オハイオ州クリーブランドの地で、中元覚先生が逝去されました。追悼文を書くにあたって、私はその役割にふさわしい人間ではありません。しかし、1ドル360円のころ、太平洋戦争が終わってまだ10年未満という状況にて、1人米国に渡り、透析医療と腎移植の黎明に尽くした1人の日本人がおられたことを終生に残しておくべきと考え追悼の文章を贈ることにいたしました。中元先生は日本透析医会の顧問として、ご尽力いただきました。

昭和62年—令和2年 日本透析医会顧問

去る2020年5月5日に米国オハイオ州クリーブランドの地で、中元覚先生が逝去されました。追悼文を書くにあたって、私はその役割にふさわしい人間ではありません。しかし、1ドル360円のころ、太平洋戦争が終わってまだ10年未満という状況にて、1人米国に渡り、透析医療と腎移植の黎明に尽くした1人の日本人がおられたことを終生に残しておくべきと考え追悼の文章を贈ることにいたしました。中元先生は日本透析医会の顧問として、ご尽力いただきました。

人工透析を開発したコルフ先生 (Dr. Willen J Kohn) について。コルフ先生は1938年オランダのライデン大学を卒業後、1940年代オランダのカンペン市民病院におられた当時、患者の母親にこれ以上の治療はなく、まもなく若い娘さんは尿毒症で死亡すると告げるのに耐えられなかったとのこと。これが原動力となりコルフ型人工腎臓を1944年に開発しました。末期腎不全の症状を少しでも軽減するため、1日に20gの尿素を患者から除去できる装置(回転ドラム型人工腎臓)を発明したのは有名です。カンペン市のエナメル工場の技師のBeets氏の援助を受けて作成されました(図1、2)。その功績を以て米国に渡り、1950年にクリーブランド・クリニックに移られました。

1956年、中元先生とコルフ先生の生涯を通じた子弟関係が始まりました。中元覚先生(山口大学卒)は、1951年に在日米軍病院に採用、1953年のホノルルのクアキニ病院を皮きりに、ニューヨークメトロポリタン病院、コロラド州立病院でレジデント開始、1956年にクリーブランド・クリニックにて研修を開始されています(図3)。先生は、末期腎不全患者が透析治療だけでなく、腎移植でも同様に命が助かる日が来るのはあまり遠くないと信じていました。

者の母親にこれ以上の治療はなく、まもなく若い娘さんは尿毒症で死亡すると告げるのに耐えられなかったとのこと。これが原動力となりコルフ型人工腎臓を1944年に開発しました。

末期腎不全の症状を少しでも軽減するため、1日に20gの尿素を患者から除去できる装置(回転ドラム型人工腎臓)を発明したのは有名です。カンペン市のエナメル工場の技師のBeets氏の援助を受けて作成されました(図1、2)。その功績を以て米国に渡り、1950年にクリーブランド・クリニックに移られました。

1956年、中元先生とコルフ先生の生涯を通じた子弟関係が始まりました。

中元覚先生(山口大学卒)は、1951年に在日米軍病院に採用、1953年のホノルルのクアキニ病院を皮きりに、ニューヨークメトロポリタン病院、コロラド州立病院でレジデント開始、1956年にクリーブランド・クリニックにて研修を開始されています(図3)。先生は、末期腎不全患者が透析治療だけでなく、腎移植でも同様に命が助かる日が来るのはあまり遠くないと信じていました。

人工透析を開発したコルフ先生 (Dr. Willen J Kohn) について。コルフ先生は1938年オランダのライデン大学を卒業後、1940年代オランダのカンペン市民病院におられた当時、患者の母親にこれ以上の治療はなく、まもなく若い娘さんは尿毒症で死亡すると告げるのに耐えられなかったとのこと。これが原動力となりコルフ型人工腎臓を1944年に開発しました。

末期腎不全の症状を少しでも軽減するため、1日に20gの尿素を患者から除去できる装置(回転ドラム型人工腎臓)を発明したのは有名です。カンペン市のエナメル工場の技師のBeets氏の援助を受けて作成されました(図1、2)。その功績を以て米国に渡り、1950年にクリーブランド・クリニックに移られました。

1962年半ばのある日、朝の回診後。慢性透析の多くの患者は死亡している現状で腎移植をクリーブランド・クリニックでも考えてはどうかとコルフ先生にこわごわ提言しました。人工臓器の産みの親といわれたコルフ先生からは、腎移植の提案には反対されると思っていたが、逆に大いに賛成だといったので驚くとも大変嬉しかったと記述しています。

その頃1954年には、米国Peter Bent Brigham Hospital)の一卵性双生児間の腎移植(泌尿器科医Muray, 腎臓内科医Merrill)による)が成功していました。腎移植の開祖メリル先生 (Dr. John Merrill) ともコルフ先生は長年の友達であり、すぐにメリル先生のもとへ腎移植の研修に派遣されました。1962年11月には、中元先生がリーダーとなり、腎移植チームがクリーブルド内に結成されています。1969年にはNHJの腎移植登録の委員に選ばれました。そして34歳でクリーブランド・クリニックのフルスタッフに昇格されています。1960年代初頭の米国の献腎移植は移植腎が機能するまで、透

その頃1954年には、米国Peter Bent Brigham Hospital)の一卵性双生児間の腎移植(泌尿器科医Muray, 腎臓内科医Merrill)による)が成功していました。

その頃1954年には、米国Peter Bent Brigham Hospital)の一卵性双生児間の腎移植(泌尿器科医Muray, 腎臓内科医Merrill)による)が成功していました。腎移植の開祖メリル先生 (Dr. John Merrill) ともコルフ先生は長年の友達であり、すぐにメリル先生のもとへ腎移植の研修に派遣されました。1962年11月には、中元先生がリーダーとなり、腎移植チームがクリーブルド内に結成されています。1969年にはNHJの腎移植登録の委員に選ばれました。そして34歳でクリーブランド・クリニックのフルスタッフに昇格されています。1960年代初頭の米国の献腎移植は移植腎が機能するまで、透

その頃1954年には、米国Peter Bent Brigham Hospital)の一卵性双生児間の腎移植(泌尿器科医Muray, 腎臓内科医Merrill)による)が成功していました。

その頃1954年には、米国Peter Bent Brigham Hospital)の一卵性双生児間の腎移植(泌尿器科医Muray, 腎臓内科医Merrill)による)が成功していました。

析サポートをしないことが多く、中元先生は移植後無尿期の管理としてむしろ透析を行い、腎機能回復を図りました。この功績を、のちにユタ大学に移られたコルフ先生が高く評価されています。

当時、クリーブランドでの研修医のころ、中元先生は人工腎臓の動物実験と、臨床治療に明け暮れておられました。限外濾過(透析液への高張糖液負荷を血液回路にスクリークランプをかけての圧濾過)の研究で、のちに修士認定を1959年に取得されています。また1960年にはシアトルに研修にて、スクリーナー先生 Dr. Belding Scribner) の下、AV fistulaを勉強にいられました。当時スクリーナー先生はシアトルのボーイングの工場に勤務していたQuinton氏の協力にて、細いテフロン管が、飛行機のガソリン液体移送に最適との意見を受け、テフロン管における外シャントを作成していました。この話は日本の若い医師の参考になると思うと中元先生は述べています。その後中元先生のもとには、柴垣昌功先生(ご子息は聖マリヤンナ医大教授の柴垣有吾先生)

その頃1954年には、米国Peter Bent Brigham Hospital)の一卵性双生児間の腎移植(泌尿器科医Muray, 腎臓内科医Merrill)による)が成功していました。

その頃1954年には、米国Peter Bent Brigham Hospital)の一卵性双生児間の腎移植(泌尿器科医Muray, 腎臓内科医Merrill)による)が成功していました。

その頃1954年には、米国Peter Bent Brigham Hospital)の一卵性双生児間の腎移植(泌尿器科医Muray, 腎臓内科医Merrill)による)が成功していました。

その頃1954年には、米国Peter Bent Brigham Hospital)の一卵性双生児間の腎移植(泌尿器科医Muray, 腎臓内科医Merrill)による)が成功していました。

を始め、能勢雪彦先生、尾前照雄先生、八木繁先生など数多くの先生が留学されております。

透析医療と腎移植はその黎明期を同時期としており、末期腎不全の患者を救いたい思いで中元先生は米国で生涯をささげられました(図4)。)長男のDean氏、お孫さんのKent氏(オハイオ州立大学医学部生)のお二人とも医師としての道を歩まれています。

生前のご貢献に感謝して、謹んでご冥福をお祈りいたします。

- 1) Satoru Nakamoto : Reflections on my Lifetime teacher : Dr.Willem J. Kolff. Artificial Organs 2018 ; 42(2) : 115-126.
- 2) 中元 覚 : アメリカで透析と腎移植に生涯を捧ぐ。東京 : 日本医学出版、2005。

*写真資料は著者らが、中元先生との交流を基にして、後世に残すべきものとして頂いたものです。(日本透析医学会理事 酒井謙、元クリーブランド・クリニック 鐘水史朗)



図1



図2



図3

図1 回転ドラム式人工腎臓

図2 コルフ先生は自費で裁縫器を購入し、セロファン透析膜を作成(クリーブランド・クリニック)

図3 Dr.コルフと中元覚先生、クリーブランド・クリニックにて

図4 コルフ先生と中元覚先生ご夫妻



図4

ニユーフェイス

初期臨床研修を終えて

山口大学大学院医学系研究所 眼科学講座

青木 連

私は、山口大学を卒業後、徳山中央病院で2年間初期臨床研修をさせて頂いたことが出来ました。私が徳山中央病院を初期臨床研修先に選択した理由は2点あります。まず1点目は、救急診療で多くの症例を経験できる病院であることです。上級医の先生方のご指導のもと2年間で非常に成長できたと感じています。

2点目は、徳山中央病院は診療科が多く揃っている病院であることです。学生時代にまだ志望科を決定していなかった私にとって、研修医としてその診療科での診療に実際に携わること、より現実味を持つて自分の進路を考え、選択することができました。

2年間のうち、1年目は内科や外科などの必修科をローテートし、2年目は眼科を主にローテートさせて頂いた頂きました。2年目は山口大学医学部附属病院の眼科にも2ヶ月間たすき

掛けて研修させて頂いたとき、大変有意義な時間を過ごすことができました。昨年度より山口大学医学部眼科に入局し、大学病院で臨床業務にあたっております。山口県の眼科医療に貢献できるよう日々精進して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

徳山中央病院
<https://tokuyama.jcho.go.jp>



卒後臨床研修体験談

山口大学大学院医学系研究科 産科婦人科学講座

松井風香

私は山口大学を卒業後、山口大学医学部附属病院での初期臨床研修をさせていただきました。私は産婦人科への入局を決定していたこともあり、小児科・産婦人科・周産期プログラムで、約9ヶ月を山口大学産婦人科でご指導いただきました。大学病院ということもあり、重症疾患に出会う機会が多いのですが、指導医の先生のもと、産科・婦人科とも多くの症例を担当させていただきました。特に産科領域は、母と胎児を診療するという難しさを感じますが、諸先生方に熱心にご指導いただき、9ヶ月で学んだことは今でも産婦人科で診療する上での基盤となっています。

私にとって成長できるきっかけとなりました。多くの同期にも出会うことができ、彼らと切磋琢磨できたことも自分の財産になりました。昨年度より山口大学産婦人科で診療助教として勤務させていただいております。山口県の産婦人科医療に貢献できるよう、精進して参りたいと思います。

徳山中央病院

https://tokuyamajcho.go.jp

さらに、たすき掛け研修として徳山中央病院でも研修させていただきました。特に救急外来では軽症から重症な疾患まで、自分で診断・アセスメントし、治療を行うという経験は、最初はとても不安を感じましたが、同時にとても刺激的で、

2021年 霜仁会年会費 自動引落のお知らせ

年会費：10,000円
 自動引落予定日：2021年5月26日
 自動引落のお申込みは霜仁会事務局までご連絡下さい。(0836-22-2029)
 どうぞよろしくお願いいたします。



令和2年度4年生 白衣着衣式（令和2年12月18日 於新病棟オーディトリウム）記事はP3に掲載

* 2021年 * 霜仁会総会のお知らせ

日時：2021年5月16日（日）
 総会 14時より
 場所：ANAクラウンプラザホテル宇部 3階
 山口県宇部市相生8-1
 TEL (0836) 32-1112

※今回はコロナ禍のため、山口県内の代議員の方に出席依頼をし、他の代議員の方には委任状をお願いする縮小した総会で開催することになりました。ご了承ください。

編集後記

コロナ禍で多くの霜仁会関連行事が中止となり、掲載記事が少なくなりましたが、今号では岡田先生の論文がトップジャーナルに掲載されたという嬉しい便り

訃報

- 石田益偉先生（昭37年卒） 令和元年12月22日逝去
 - 小林淑子先生（昭48年卒） 令和2年6月逝去
 - 原 紀正先生（昭50年卒） 令和2年8月12日逝去
 - 清家清一先生（昭34年卒） 令和2年11月18日逝去
 - 中山英男先生（昭25年卒） 令和2年11月30日逝去
 - 内倉洋三先生（昭40年卒） 令和2年12月22日逝去
 - 藤山哲男先生（昭45年卒） 令和3年1月11日逝去
 - 張替直基先生（平6年卒） 令和3年1月29日逝去
 - 石原弘三先生（昭41年卒） 令和3年2月5日逝去
 - 森信謙一先生（平元年卒） 令和3年2月9日逝去
 - 吉永孝富先生（昭25年卒） 令和3年2月12日逝去
 - 伊藤輝夫先生（昭34年卒） 令和3年2月24日逝去
 - 木畑和正先生（昭52年卒） 令和3年3月1日逝去
- ご冥福をお祈りいたします。